

認知低下とせん妄

認知症を持つ人が急におかしなことを言い出すことで、ビックリされる御家族は多いです。診察中、『先生聞いて下さい！こんなおかしなことがあったんですよ！』とあるあるオンパレードになることもしばしばです(自分は実は聞き続ける作業が苦手です)。認知症は『進行性に認知機能が低下する病(やまい)』ではありますが、粗大な新規脳梗塞でも発症しない限り、『1-2ヶ月のうちに急激に進行するほど恐ろしい病』ではありません。であれば、急におかしなことを言い出すのは一体何なのか？この場合、『頭がボーッとして半分寝ぼけたような(夢みたいな現実みたいな)状態となり、おかしなことを言っている』ことが多いです。これを『せん妄』といいます。一時的な意識障害(覚醒水準の低下)なので、時間が経てば元に戻ります(がまた悪くもなりません)。運転中、あるいは授業中、映画鑑賞中、眠たくなっていつの間にか『もうこんなところまで進んでいた！』という経験は誰しもあると思います。認知症になったり身体的状況が悪くなったりすると、頭がスッキリした状態(覚醒水準)を保つことも難しくなります。認知症の薬は覚醒水準の低下にも効果があるとされています。